

平成 29 年度 第 20 回講演会 記録

日 時	平成 30 年 2 月 24 日 (土) 13:00~16:00
会 場	此花会館 梅香殿
講 師	京都大学名誉教授 舞根森里海研究所長 当講座コーディネーター 田中 克先生
演 題	2017 年度自然学講座のまとめ 「いのちのふるさと海と生きる社会」～森里海を結び心豊かに暮らせる未来を～
備 考	出席者 148 名 (会員 124 名+一般 21 名+聴講 3 名) 記録 飯田正恒

本日は、平成 29 年度の最終講演日であり、あわせて修了式を執り行った。

第一部 講演の部

(1) 田中 克先生：講演副題「森里海を結び心豊かに暮らせる未来を」

滋賀県大津市生まれ、琵琶湖や小川のさかなを友達にして育った原体験が、水産生物学研究者としての道を歩むことになったとのお話を皮切りに、「いのちのふるさと海と生きる社会」の必要性と再生への道を、先生のかねてからの持論に 2017 年度自然観察会の結果も加えて、豊富な映像写真 (PPT 資料) を駆使して講演された。個々の講演会、観察会を一つの共通項で体系的に整理してみると、一年間の活動の成果が鮮明に浮かび上がり、改めて自然学講座の価値や意義を認識したご講演であった。講演内容がレジュメに詳細に記述されているので、ぜひお読みください。

(2) 竹中 史朗氏：事例報告 演題「縁は異なるもの妙なもの」

東北大震災で壊滅状態になった岩手県大槌町の復興の様子を撮り続けている小西晴子先生との交友や、スイス・バーゼル音楽学校教授・エバングロス氏が大槌学園にグランドピアノを寄贈するための活動を支援してきたが、その願いが叶い今年 5 月に大槌学園で記念コンサートが行われることになった。人と人の温かな繋がりを通して、大槌町復興に貢献している活動事例などが紹介された。

第二部 修了式

(1) 田中克先生：当初予定した 3 年間があつという間に終わり、まず皆さんにお礼申し上げたい。

自然観察会は現場で頑張っている人を通して何かを感じて欲しいと願い実施してきたが、その代表例が、社会活動としての「森は海の恋人」であり、私は科学者の立場からサポートしてきた、ようやく専門家の研究と社会的な活動が繋がってきた。皆さん方が市民としてこのような活動に関われる仕組みをつくることにより、この自然学講座をさらに発展させることができるのではないかと考えており、あと 2 年間がんばるのでよろしくお願ひします。

(2) 金高俊儀副代表理事：「森里海のつながりーいのちの循環」と銘打ち 5 年間にわたり行なわれる、このような講座の例を他にしらない。、田中克先生ならではのユニークなテーマで、素晴らしいご指導をいただいていることに、シニア自然大学校として心より感謝申し上げます。

(3) スタッフを代表し藤原が田中先生へお礼のことば、および講座運営に協力いただいた方への謝辞、を述べ、飯田が平成 29 年度の活動結果を PPT で報告し、修了式を終えた。

以上